

経済的側面

JFEエンジニアリング



売上高
2,921
億円

経常利益
58
億円

第2次中期経営計画においては、それぞれの事業分野ごとに、トップクラスの高収益をあげる事業基盤の確立をめざしています。マーケットの変化に適応した最適事業体制の構築と、事業の選択と集中を図ることにより、収益基盤の再構築に向けた取り組みを推進しています。また、卓越した技術を保有する環境エネルギー分野やリサイクル分野をはじめとして、海外分野や民需分野など、成長分野への取り組みを強化し、収益拡大を図っています。

	2005年度	2006年度
受注高	2,907	2,751
売上高	3,060	2,921
営業利益	△33	△19
経常利益	9	58

会社のURLは
JFEエンジニアリング
<http://www.jfe-eng.co.jp/>

J F E G R O U P
B U S I N E S S
R E P O R T 2007



2006・2007年度の業績概況

2006年度は、民需部門での大幅な受注拡大を達成しましたが、公共事業全体の発注規模縮減や長期にわたる指名停止の制約の影響が大きく、受注高2,751億円、売上高2,921億円と、前期に比べ減収となりました。しかし、不採算事業からの撤退や、固定費削減等の大幅なコスト削減を図った結果、経常利益は58億円と、前期に比べ増益となりました。

2007年度は、前期同様厳しい事業環境が予想される中、新たな時代の新たな市場構造に適応した、最適な事業体制を構築し、着実な事業推進を図っていきます。さらに、引き続きコスト削減と着実なプロジェクト推進に取り組むことにより、前期並みの損益となる見通しです。

2006年度の活動と2007年度の取り組み

2006年度は、「収益基盤の抜本的な再構築」に向けて、各種施策に着手しました。

当グループが圧倒的な強みを持つ環境事業については、さらなる事業基盤の強化・拡大に向け、グループにおける環境事業のコアとなる、JFE環境ソリューションズ(株)を発足させ、計画・設計・施工・アフターサービスが一体となった、効率的事業運営体制を構築しました。

民需分野では、環境負荷低減に向けた設備投資意欲が高く、当グループの技術力を存分に発揮できるマーケットが広がりを見せつつあります。これを背景に、当グループが成長戦略の柱と位置づけている環境

エネルギー分野において、「バイオマスボイラー」*や「木質バイオマスガス化発電システム」を着実に受注しました。

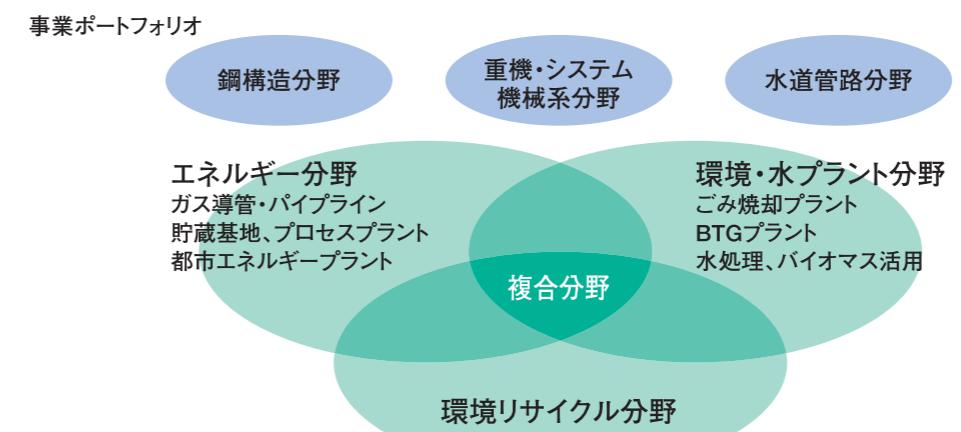
また、産業機械分野やリサイクル分野、海外分野においても、その事業基盤を着実に強化しています。

2007年度は、公共事業の回復が見込めない中、グループ全体での最適事業体制の構築をさらに追求し、より強靭な事業体の実現と競争力の一層の強化を図っていきます。また、環境エネルギー分野、環境リサイクル分野など、新たな成長基盤の強化を図り、事業拡大と安定収益確保に取り組んでいきます。

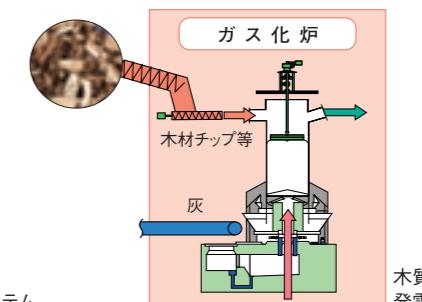
* バイオマス燃料やリサイクル燃料を使用する循環流動層ボイラー



バイオマスボイラー
(完成予想図)



水和物スラリ
蓄熱空気システム



木質バイオマスガス化
発電システム



JFE環境ソリューションズ
発足式